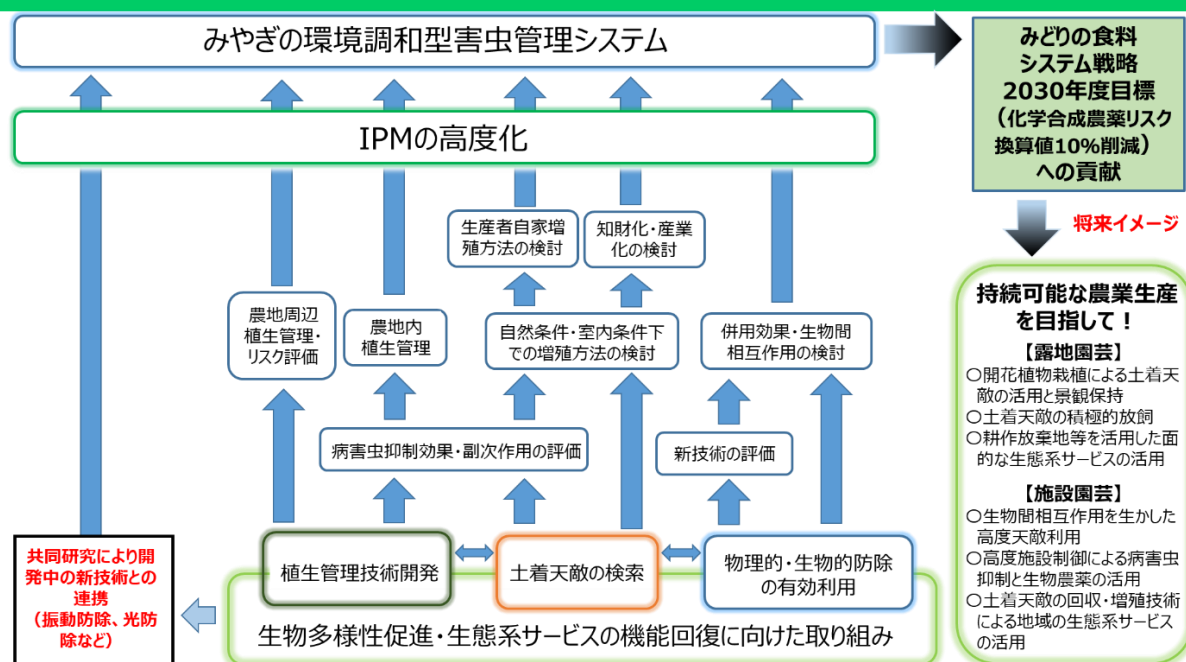


「みどりの食料システム戦略」を実現するための 環境調和型害虫防除技術の開発

1 目 的

我が国の農林水産業は、生産者の減少・高齢化、気候変動、生物多様性の喪失など多くの問題を抱えている。それらの問題を解決し、持続可能な食料生産システムの構築を目的とした「みどりの食料システム戦略」が令和3年に策定された。本戦略では2050年までにリスク換算値で化学合成農薬の使用量50%低減や有機農業の取り組み面積の大幅な拡大を目標のひとつとして掲げている。この目標の達成には、新たな総合的病害虫管理(IPM)技術の開発と確立が強く求められている。そこで本研究では「生物多様性」をキーワードに、農地の生物相多様化促進による土着天敵や生物間相互作用を活用した新たな技術開発を核としつつ、既存技術も最大限に活用した環境調和型害虫管理システムの構築を目指している。

2 研究計画・試験方法等



【研究の一例】



土着天敵の例

ほ場にオオムギを間作（作物と作物の間の通路に植えること）することで、土着天敵（県内に生息する害虫を捕食する昆虫）が増える
→ 作物に寄生する害虫が減少する

→ 農薬使用低減！

